KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学
広報誌　No.100

若きいのち

特集　「若きいのち」のあゆみ

- 担任から卒業生へ
- 栄えある受賞者／留学生帰国／上海からニーハオ！！
- 学生表彰／学友会新役員紹介
- オペレッタ
- 研究発表会・実習事例報告会
- 日本語に関する取り組み／川崎エコアクション
- インフォメーション

放射線技術科 無散瞳型眼底カメラ実習風景
（撮影：天野 貴司）

若きいのち のあゆみ

川崎医療短期大学の広報誌「若きいのち」は100号を迎えました。前身の「学報」創刊号が発行されてから36年、時代とともに姿を変えながら本学の情報を発信してきました。今回の特集では、創刊号の巻頭言を引用するとともに、「若きいのち」誕生の経緯やこれまでのご経験を、元広報誌編集委員長である名木田 恵理子副学長、天野 貴司前編集委員長に執筆していただきました。また、今後の展望について、現編集委員長の河邉 聡子が執筆しました。

創刊号（1981年11月発行）の巻頭言

「短大学報の発行を喜んで」　2代学長　川上 亀義

　このたび待望の“短大学報”第1号が発行されることとなり、まことに嬉（うれ）しく存じておるものでございます。

　わが川崎医療短期大学も創設時には第一看護科、第二看護科、臨床検査科の3学科で入学定員は合わせて150名、専任教職員も30名程度でまことにささやかな大学であって、相互の意思疎通も容易に行われ、家庭的な暖かい人間関係によって理想的短大の建設を目ざして、懸命に努力していったのであります。

【中略】

　（今後も）より積極的に周到な配慮により有効適切なコミュニケーションの手立てを講じ、本学の教育推進に向けての深い相互理解と強靱（じん）な連帯をゆるがぬように常に心し、努力していかねばならぬと思います。

　“短大学報”を発行するにいたったこのことは、この意味においてまことに時宜を得たものということができ、その機能を十分に発揮するよう期待してやまないものであります。

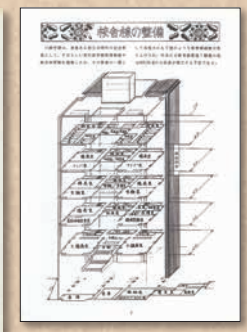
　私どもはこの学報によって本学の実情を正しく、詳細に理解し、教育推進の共通の足場を固めたいものと思いますとともに、我等の学報として進んで情報や意見を提供して、紙上で語り合い、暖かい心が通う人間関係を深めてまいりたいものであります。

「デザイン」のあゆみ

創刊号からこれまでの表紙の変遷をたどってみました。

創刊号　1981年11月

B5版で、白地の背景にモノクロ印刷されました。



3ページ目には、当時の校舎の構造が、手描きで紹介されていました。この記事から、1981年には現校舎本館の西側しかなく、その後、東側が増設されたことが分かります。

9号　1985年7月

背景が緑色になりました。

22号　1992年3月

タイトルのロゴタイプとデザインが変わりました。

若きいのち誕生秘話

副学長　名木田 恵理子
委員長期間：2005年4月～2009年3月

1973年に3学科で開学した本学が、学科を増やして大規模短期大学へと成長した1981年、当時の川上 亀義学長が教職員や学生間の相互理解の重要性を考え、情報共有の場として「学報」発刊を発案されました。「学報」には、学生の動向やエッセイなどを載せた情報誌と、人事や教員業績、主要行事と来訪者などの学事を記録した学事報の二つの要素がありました。年２回の発刊でしたが、本学の発展とともに記事内容が増え、2004年の短大30周年のころには50ページを超す冊子となっていました。

その頃、少子化という時代のなかで本学の広報活動を充実させるため、広報的な学生情報誌と、学事記録文書としての学報を分けることが検討されました。その結果、「学報」を引き継いで、2005年７月から、学生や受験生向けにカラー版12ページの広報誌を年４回、学事については年１回別途学報を発行することになりました。教職員に公募した誌名71案のなかから「若きいのち」が選ばれ、題字の揮毫を非常勤講師で毎日書道展審査会員（当時）の佐々木 公江先生にお願いしました。それまでとはコンセプトの異なる新雑誌を作るため、レイアウトから色合わせに至るまで印刷業者さんと夜遅くまで検討しました。創刊号の49号が完成するまでの苦労は今も忘れられません。

「学報」から「広報誌」へと続く100冊には、構成から文章の細部にまで、教職員の創意工夫と本学に対する愛情が込められています。本学は2学科に移行しましたが、「若きいのち」は、今後も教職員と学生、受験生をつなぐ広報誌として「若々しい命の輝き」を放っていくものと信じています。

佐々木 公江先生には書体と表記の異なる二つの揮毫をいただきました。

28号　1995年3月

タイトルのロゴタイプが変わりました。

35号　1998年9月

一部カラー化されました。

47号　2004年6月

創立30周年記念特集号
B5版からA4版化されました。

編集への思い入れ

放射線技術科　天野 貴司
委員長期間：2009年4月～2015年3月

私が広報誌編集委員長に就任したときに掲げた目標は、委員全員が「こだわり」を持って作業にあたり、完成度の高い誌面を作成することでした。

まず、表紙の写真は誌面全体の顔ですので、読者の興味を引き、手に取ってもらえる「よい写真」を掲載することにしました。しかし、専属のプロカメラマンがいないため、ほとんどの場合、編集委員が撮影した写真を使っていましたし、現在もそうだと思います。学生たちの生き生きとした表情を撮るため悪戦苦闘しますが、編集委員による渾身の1枚が毎回表紙を飾っています。

次に、誌面冒頭の「特集記事」は、学内での出来事を綴(つづ)っただけの「学内報」や「新聞記事」ではなく、読者にとって有意義な情報を伝える「特別な記事」となるよう努めました。学生、保護者、高校生、川崎学園の職員が興味を持つ企画の立案に多くの時間を割き、執筆者の選定やレイアウトまで細かく練り上げました。この「特集」は広報誌のメイン記事であるため、かなりの力を注いで編集作業にもあたりました。特集の他にも「地域探訪くらしき&おかやま」のような企画も立案しました。

さらに、全体のデザインも、それまで以上に「見栄え・華やかさ」にこだわりました。全体的に明るく、色調も柔らかくし、レイアウトやデザインも業者任せでなく、積極的に自分たちの思い描く完成形を提案してきました。

編集委員の務めは、執筆者に原稿を依頼し、その原稿を受け取って業者へ渡すだけのものではありません。これからも、この「こだわり」が引き継がれて、より良い誌面が作られていくことを祈念します。

61号表紙　「こもれ陽のさす桜の下にて」
撮影：天野 貴司

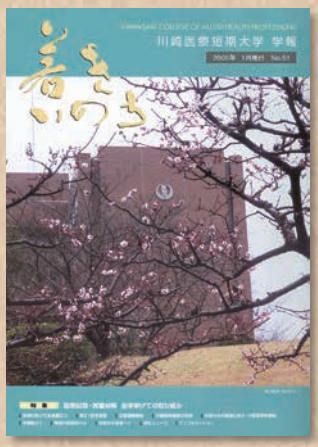
【思い出の企画】
「地域探訪くらしき&おかやま」
(77～91号)
学生とのコラボレーションで誕生した企画で、写真部の学生が岡山県の名所を散策し、撮影した写真に解説を添えて紹介する記事です。写真の選定や記事の執筆をすべて学生たちで行うため、始めは戸惑いもあったようですが、若い感性の詰まった素晴らしい作品を多数（11作品）残してくれました。

「デザイン」のあゆみ

49号　2005年7月

「若きいのち」創刊号
これまでのデザインを刷新して、現在のデザインの原型が完成されました。

51号　2006年4月



現在のデザインになって、内容もカラフルになりました。
右は51号の記事のひとつです。

77号　2012年6月

表紙の写真を「人」中心に構成するようになりました。
また、「左開き」になりました。

これまで、そしてこれから

医療介護福祉科　河邉 聡子
委員長期間：2015年4月～現在

このたび、「若きいのち」が100号を迎えました。私が、最初に編集に関わらせていただいたのは「学報」の時代のことで、編集のことを何も分からないまま委員会に参加していました。そのうち、名木田副学長の記事にあるように、「学報」から「若きいのち」という広報誌になりました。

「若きいのち」の特集は、初期のころには就職活動や第三者評価など、本学の様子をそのまま伝える内容のものが多かったように思います。その後、学園祭の様子をブログ形式にまとめたもの（63号）、入学式前のオリエンテーションの様子を時系列にしたもの（65号）、就職活動に向けた先輩からのアドバイス（76号）など、さまざまな趣向を凝らした特集を組むようになりました。内容については委員会で決定していますが、過去のものと重複しないように注意を払い、工夫をしてきました。

2015年には、天野前委員長の後を受けて、委員長を拝命しました。2017年度から3学科が川崎医療福祉大学へ移り、看護科と医療介護福祉科の2学科体制のなかでどのような広報誌を作り上げていくのか、学生募集にいかに結びついた広報誌とするのかについて、模索を続けています。例えば特集については、従来通り5学科の記事（96号・98号）と、看護科・医療介護福祉科の広報を中心とするもの（97号・99号）の二つのパターンで構成しています。

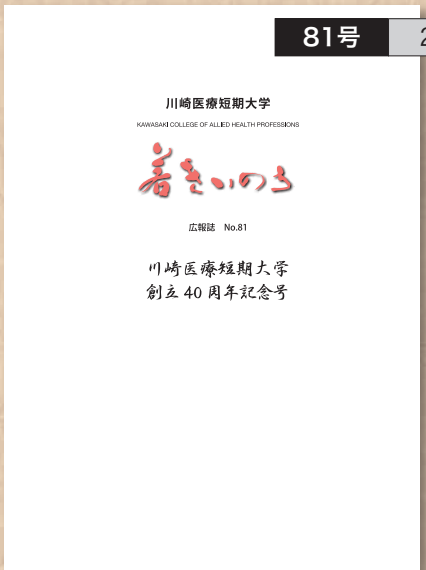
これまでに諸先輩方が築かれた伝統を踏まえ、在学生や保護者の方々、これから本学を受験してくださる方、川崎学園関係者の皆様、教職員に向けて、今後もより良い情報を発信し続けられる「若きいのち」を発行していきたいと思います。

97号特集「新たなスタートへ」

「実習室紹介（看護科と医療介護福祉科）」
これからの本学を支える2学科の実習の様子を紹介する記事です。

※「若きいのち」のバックナンバーは2006年12月発行の55号から、本学のホームページ「広報誌」にて閲覧することができます。また、54号以前のものは本学図書館で閲覧可能です。

81号　2013年6月



創立40周年記念号
川崎医療短期大学学歌
「若きいのち」

100号　2018年3月

最新号

担任から卒業生へ

看護科　3年担任
太田 栄子

ご卒業おめでとうございます。この3年間、楽しかったこと、つらかったこと、感動したこと、がむしゃらに頑張ったことなど、さまざまな経験をされましたね。最後までやりぬいて、ずいぶんと成長されてこの日を迎えられたことを本当にうれしく思います。

ナイチンゲールは、「自分自身は決して感じたことのない他人の感情のただ中へ自己を投入する能力が看護師には必要である」と言っています。すなわち看護は、相手の気持ちを想像し、読み取る能力を求められる職業です。卒業する皆さんにはこの能力を十分に発揮して、患者さんから信頼される看護師になられることを期待しています。そのためにまずは自分自身を大切にしてください。自分自身が幸せであって、初めて本当の笑顔で相手に接することができると思います。皆さんの幸せと、ますますのご成長を心からお祈りしています。

看護科　3年担任
島村 美砂子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年間という月日の経過をどのように感じていますか。看護を学ぶなかで、苦しんだり、楽しんだり、悩んだりと、さまざまなことを経験しながらここまでこられたのではないでしょうか。3年間で学んだことを土台として、今後さらに多くのことを積み上げてほしいと思います。

ノートルダム清心学園理事長であった渡辺 和子さんのお言葉を借りて、皆さんへのメッセージにさせていただきます。

> 神様は私たちの“願ったもの”よりも、幸せを増すのに“必要なもの”を与えてくださいます。それは必ずしも自分が欲しくないものかもしれません。しかし、すべて必要なものだと感謝して謙虚に受け入れることが大切です。

私もこのお言葉を改めて心に刻みたいと思います。皆さんの今後のご活躍をお祈りします。

臨床検査科　3年担任
中原 貴子

43期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。講義・実習と忙しいカリキュラムを無事クリアし、ひと回りもふた回りも成長されたことと思います。まずは頑張った自分を褒(こ)めてあげてください。

4月からは就職先や編入学先での生活が始まり、「教えを乞う」立場から「問題意識を持って自ら考えていく」立場となります。やったこと、あるいはやらなかったことに対して責任を負うという意識を持たなければなりません。新しい環境に慣れていくのは大変ですが、本学で学んだことを十二分に生かし自分を伸ばしていくことで、数年後にはさらなる飛躍を遂げられることでしょう。自身の力を過信することなく、常に謙虚でいてください。そして、愛される医療人になってください。

皆さんの人生のうちの数%の時間でしたが、共に過ごすことができて本当によかったです。ありがとう！！

放射線技術科　3年担任
原内　一

ご卒業おめでとうございます。そして、皆さんの卒業を心よりうれしく思っています。

僭越(せんえつ)ながら担任として最後のアドバイスをさせていただきます。仕事の上手な人には、努力をすればなることができます。しかし、仕事のできる人には、ただ努力をしてもなることができません。ましてや、要領よく、どのように立ち回れば「できる人」に見えるかを考えていても無駄です。思いやりがある人に見える行動では、相手に見え透いた行動に見えるのと同じです。仕事ができる人には、仕事への姿勢や、生き方が必要になります。若い皆さんには、また担任が「訳のわからないこと」を言っているように感じるかもしれませんが、いつかこの言葉の意味を理解してくれる日が来るものと信じています。そして、「仕事のできる人」になった皆さんと再会できることを楽しみにしています。

医療介護福祉科　2年担任
河邉 聡子

ご卒業おめでとうございます。この日を皆さんと一緒に迎えられたことを、とてもうれしく思います。入学当初と比べて成長できたでしょうか。この２年間をぜひ振り返ってみてください。ここにくるまで、支えてくれたたくさんの人に対する感謝の気持ちを忘れないでください。これからは利用者の方や患者さんを支える立場になります。仕事をするなかで、一人で解決することができないこともたくさん出てくると思います。そんなときには、あなた自身も誰かの支えが必要となるかもしれません。自分の信念を持ちつつ、人の言うことを素直に聞き、受け止めることも大切です。いつか社会人としてさらに成長した姿で母校を訪れてください。

医療保育科　3年担任
岡田 恵子

11期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
社会人としてスタートされる皆さんを見て、本当にうれしく、頼もしく、反面さみしくもあります。
4月から新しい生活がスタートします。苦しいこともあるでしょうが、きっと楽しいこと、いいことがいっぱいあると思います。とびきりの笑顔で、あなたのところに駆け寄って来るかわいい子どもたちが毎朝待っています。なかには友達と遊べない子、手のかかる子もいるでしょう。でも、どんな子どももかけがえのない宝物です。愛と慈しみを持って子どもたちに接してください。
日常の出会いのなかに新しい発見と感動を忘れず、先生としての素敵な笑顔で、向上心を持って進んでください。楽しいこと、いいことをたくさん見つけてください。

医療保育科　3年担任
重松 孝治

医療保育科11期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
3年生の担任として、私は「せんせい」つまり「“先”に“生きる”者」として十分な存在だったでしょうか。私自身の言葉や表情、仕草、行動の一つひとつは、皆さんにとって指針となるものだったでしょうか。私にとって「せんせい」であることは、それらに責任を感じ、自問自答しながら生きることだと考えています。
これから皆さんの多くは、保育・教育現場等で「せんせい」と呼ばれる存在になります。何を感じ、考え、学び、悩んで生きてきたのか、そして生きていくのか、そのそれぞれを大切にしてください。そうした思いを「せんせい」として子どもたちに示す存在として歩んでください。
これからの皆さんの人生が素敵なものとなることを心から願っています。おめでとう！

栄えある受賞者

平成29年度卒業証書・学位記授与式は3月15日に挙行され、「学業成績優秀で、品行がすぐれ、他の学生の模範とするに価する」と認められた学生に『学長賞』と『学科賞』が贈られます。

【学長賞】全卒業生のうち、特に優れた学生であると認められた場合に表彰されます。
【学科賞】各学科から1人が表彰されます。

学長賞

臨床検査科
足立 菜々美

学科賞

看護科
中村 舞菜

臨床検査科
長見 美紀

放射線技術科
宇山 友二

医療介護福祉科
飯尾 有佳

医療保育科
浅野 菜々子

留学生帰国

再会（ジァイジェン）、日本の皆さん

日本の看護学を学ぶために上海から本学へやって来た2人の留学生が、約3年半の留学期間を無事に終え、帰国の途に就くことになりました。
今後ますますのご活躍をお祈りします。

蒋 韵璐（しょう うんろ）
（看護科）

万 雪晴（まん せつせい）
（看護科）

上海からニーハオ！！

11月27日に上海から来日しました。約4ヶ月の研修期間の後、4月に看護科へ入学予定です。
皆さん、よろしくお願いします。

上海健康医学院
附属衛生学校卒
王 琦（おう き）
(WANG QI)

上海健康医学院
附属衛生学校卒
許 思蓓（きょ しばい）
(XU SIBEI)

学生表彰

学生表彰は、学業や学外活動などにおいて他の模範となるような功績を修めた学生や団体を、学科や部顧問などが推薦し、表彰するものです。去る1月25日（木）に平成29年度表彰式が行われました。これまでに、難関の資格試験に合格した成績優秀な学生、専門分野外の全国的なコンクールに入賞した感性豊かな学生、人命救助やボランティア活動に貢献した学生などが表彰されています。今年度は、勉学に励み専門領域での活動にチャレンジした学生と、ボランティア活動や地域交流に積極的に取り組んだ団体が、本学の教育理念に沿ったものと評価され、小池 将文学長から表彰状と記念品を授与されました。

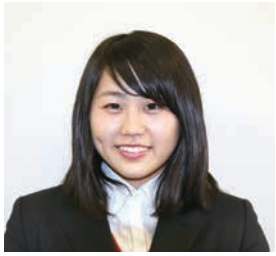
個人の部

学科・学年	氏　名	表彰理由
臨床検査科　3年	長見 美紀	優秀な学業成績を修めるとともに、日本臨床衛生検査技師会中四国支部医学検査学会で本学の代表として発表を行うなど、何事にも積極的に取り組んだ。

団体の部

団体名	代表者氏名	表彰理由
学友会執行部 部員46人	前委員長 寺本 真理子 安全パトロール代表 山本 華・松崎 歩美	年8回にわたる地域安全パトロール活動や、岡山県警と協力した非行防止対策などに取り組み、地域安全活動に貢献した。
ソフトボール部 部員26人	部長 下野 真志	中庄学区秋季大会および岡山県臨床検査技師会のソフトボール大会において準優勝を果たすとともに、地域交流に大きく貢献した。

学友会 新役員紹介



学友会委員長
看護科1年
若生 明里

皆さん、こんにちは。学友会委員長を務めることになりました若生 明里です。慣れないことが多く不安もありますが、精いっぱい頑張りますので、学生の皆さん、先生方、1年間よろしくお願いいたします。

平成29年度の学園祭終了後に、先輩方から学友会役員の任命を受け、新体制が発足しました。初めての仕事はクリスマスパーティで、問題点や課題もありましたが、成功させることができました。今後、スポーツ大会や学園祭など、学生一人ひとりが楽しみ、学科間や施設間の交流ができるようなイベントを考えております。現在は、来年度の学園祭について計画中です。来てくださるすべての方が楽しめるように努力していきます。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、温かく見守ってくださると幸いです。

学友会一同、学生の良き見本となれるように努力いたしますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

クリスマスパーティの一コマ

医療保育科
第11回
オペレッタ発表会

オペレッタ授業の概要

医療保育科では、子どもの表現活動を豊かにし、楽しむことができる保育者養成の一環として、毎年、オペレッタ制作の授業に取り組んでいます。この授業では、言葉や音楽、絵画造形、身体表現の分野を総合的にとらえ、仲間と協力したり、意見をぶつけ合ったりしながら一つの作品を作り上げます。そのなかで、保育者に必要な感性や表現技能、創造力、コミュニケーション能力を身につけていきます。

制作過程

①発表会構成の検討

今回から舞台を川崎医療福祉大学に移し、これまでの劇中心だった内容を、音楽あり踊りありの構成にするという新たなチャレンジを行いました。これまでのオペレッタ発表会を見ている学生たちは、「え？みんなで劇をしないの？」と戸惑っていました。しかし、「これまでの10年間の積み重ねのうえに新しい構成を作り上げる」という正解のない作業に前向きに取り組み、従来のオペレッタを2本に減らし、代わりに「音楽あそび」「ヒーローショー」、そしてそれらをつなぐ「幕間の物語」を考案しました。

②脚本づくりと立ち稽古

次に取り掛かったのは、各演目の命、「脚本」作成です。登場人物の台詞（せりふ）や動き、音楽、照明などが書き加えられては消され、新たに書き込まれては修正され……の繰り返しで、少しずつ脚本が出来上がっていきました。その後、本番に向けて立ち稽古を繰り返していきました。会場となる2601大講義室を使用できる回数は限られているため、大講義室が空いている時間に集中して練習しました。

③本番当日

2月3日（土）の本番当日、在学生の保護者、地域にお住まいの子どもたちやその保護者等、総勢420人のご参加をいただき、華やかに発表会を開催することができました。オペレッタ発表会に向けた取り組みのなかで感じたさまざまな思いを、今度は子どもたちの保育に生かしていってほしいと思います。

（医療保育科　入江 慶太）

研究発表会・実習事例報告会

放射線技術科　第21回 卒業研究発表会

2017年12月2日（土）

3年生51人は17の小グループに分かれ、4月から学内や附属病院で卒業研究を進めてきました。初めての「研究」は思い通りに進まず、試行錯誤を繰り返しましたが、秋には次第に結果がまとまってきました。11月の終盤になると、抄録と発表スライドの作成に取り掛かりました。発表会は、発表7分、質疑応答3分の持ち時間で17の口演が行われました。どの口演も練習の成果を発揮し、会場からの鋭い質問にもうまく対応していました。今回の経験が就職先での研究に生かされることを期待しています。

（放射線技術科　天野 貴司）

臨床検査科　第16回 臨床実習研究発表会

2017年12月9日（土）

研究発表会では約2か月間の臨床実習の研究成果を発表しました。形態検査学系、生物化学分析検査学系、病因生体防御検査学系、生理機能検査学系の領域から28の演題が出されました。専門性が高く、難しい研究内容の演題も多くありましたが、発表に対して活発な議論が繰り広げられました。発表者の学生は、フロアからの質問に熱心にそして的確に返答していました。学生の成長した姿に感心するとともに、今回の研究発表会が将来の研究活動へとつながる良い経験になったと思います。

（臨床検査科　黒住 菜美）

医療介護福祉科　医療介護福祉科実習事例報告会

2018年2月16日（金）

学生たちは、2年間の最後の実習で担当した受け持ち利用者の介護過程の展開について発表しました。どの発表もスライドや原稿に工夫をしており、誰が聞いても分かりやすく、利用者を想像できるものになっていました。フロアからも活発な質疑が行われ、学生たちは緊張しながらも真摯（しんし）に応答していました。

この報告会には実習施設の指導者の方にもご出席いただき、実習中の学生の様子や学生が立てた介護計画のその後、実習後の利用者の様子も伺うことができました。報告会を通して、個別ケアを行うことの大切さを改めて実感できました。

（医療介護福祉科　河邉 聡子）

日本語に関する取り組み

ブックポップの展示

「文章表現」の授業では、読書を通じて国語力を身につけるように促しています。今年度は、それぞれの学生がお気に入りの本や面白いと思った本を持ち寄りました。それらの本について、前期の医療介護福祉科の授業ではブックポップを作成し、後期の看護科の授業では、それに加えてビブリオバトルを行いました。ブックポップとは、お薦めの本を文章やイラストなどで紹介するもの、ビブリオバトルとは、順番に一人5分で本を紹介し、参加者全員が読みたくなった本（チャンプ本）を投票して決定するコミュニケーションゲームです。描かれたブックポップを広く皆さんに鑑賞していただくため、本学の図書館に展示しました。

▲看護科の人気投票で上位になった永井 花歩さん（左）と濱野 優衣さん（右）の作品

短歌の受賞報告

医療介護福祉科の学生が介護や家族を題材にした短歌を作り、社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会主催の平成29年度「心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会」に応募しました。その結果、今年度は2年生の山口 桃佳さんが「介護者の部」で佳作を受賞しました。

この短歌大会は、介護にかかわる人たちから短歌を募集し、介護や支援を受けている方の生きがいづくりや社会参加を進めることを目的にしています。同協議会企画の短歌集『老いて歌おう2017』（鉱脈社発行）には、山口さんを含む応募した学生全員の作品が収められました。

山口さんは、100歳が近いひいおばあさまとの生活の一コマを、丁寧に作品にまとめています。

▲受賞者の山口 桃佳さん

山口さんの作品

私より目は悪ければ手もふるえる
それでも器用さ私にまさる

地球温暖化対策ワーキンググループだより NO. 39

川崎エコアクション

責任者を退任するにあたって

平成20年4月に、地球温暖化対策ワーキンググループの委員を拝命しました。この組織は省エネルギー・省資源を推進するため当時新たに結成されたもので、放射線技術科の代表として委員に加わり、省エネパトロールを始めさまざまな取り組みや広報活動に鋭意努めてきたつもりです。平成25年度からはこのグループの責任者として、学園各施設責任者の年2回の会議に参加する立場となりました。足掛け10年、本学の省エネ・省資源に関わったことになります。

委員や教職員、学生と共にさまざまなアイデアを出して実践し、少しでも本学ひいては地球にやさしい環境作りを目指して頑張ってきたつもりですが、十分な貢献ができず内心忸怩（じくじ）たる思いがあります。

この10年間、居室の省エネ、トイレや共同利用施設の不要な照明の消灯など、個人的にも実践していた省エネ・省資源の取り組みは、この3月に定年退職した後も我が家で実践していきたいと思います。皆さんも、家庭や職場、大学で、省エネを心掛けてください。

（放射線技術科　板谷 道信）

2018年度 公開講座

第1回【放射線技術科】

講座名：「受ける前に知っておきたい放射線検査のこと！」

講　師：小野　敦（川崎医療福祉大学 診療放射線技術学科教授）
日　時：5月19日（土）10：00～11：30
会　場：本学 体育館 101教室

第2回【医療介護福祉科】

講座名：「VR（バーチャル・リアリティ）から認知症の人の『世界』を体験 ～新たな寄り添い方をみつけよう～」

講　師：辻　真美（本学 医療介護福祉科 准教授）
　　居村 貴子（本学 医療介護福祉科 助教）
日　時：7月7日（土）10：00～12：00
会　場：本学 体育館 101教室

第3回【看護科】

講座名：「がんの治療と一緒に『緩和ケア』 ～つらい症状や気がかりを和らげる～」

講　師：大石 昌美（川崎医科大学附属病院 緩和ケア認定看護師）
日　時：10月20日（土）10：00～11：30
会　場：本学 体育館 102教室

オープンキャンパス 2018年

模擬講義・体験学習や在学生との懇親を通じて、本学の特色を、ぜひ体感してください！事前の参加申し込みは不要です。保護者、教員の皆様もお気軽にお越しください。なお、詳細はホームページでお知らせします。
※3校合同オープンキャンパスは、本学と川崎医療福祉大学、川崎リハビリテーション学院の3校が協同開催します。3校合同開催時の受付は、川崎医療福祉大学で行います。

開催日時	備考
3月18日(日)　13：00～16：00	3校合同オープンキャンパス
5月19日(土)　13：00～16：00	本学オープンキャンパス
6月17日(日)　10：00～15：00	3校合同オープンキャンパス
7月22日(日)　10：00～15：00	3校合同オープンキャンパス
8月18日(土)　13：00～16：00	本学オープンキャンパス

なお、学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。
【TEL】086-464-1033（受付／平日 8:30～17:00、土曜 8:30～12:00）

主要行事（4月～6月）

4月	2日	新入生オリエンテーション（～5）
	〃	臨床検査科3年臨床実習開始（～7/19）
	4日	入学式
	〃	協助会総会（体育館11：00～）
	6日	新入生健康診断
	14日	川崎学園入学時合同研修
	〃	日本学生支援機構奨学金説明会
	9日	看護科3年臨地実習開始（～9/25）
	10日	放射線技術科3年臨床実習Ⅱ開始（～7/26）
	28日	かわさき春の体験授業＆病院探検
5月	9日	医療介護福祉科2年介護実習Ⅲ開始（毎週水曜）（～7/11）
	12日	スポーツ大会
	19日	第1回公開講座
	〃	本学オープンキャンパス
	28日	医療保育科3年幼稚園実習開始（～6/23）
6月	1日	学園創立記念日
	5日	医療介護福祉科1年介護実習Ⅰ開始（毎週火・水曜）（～7/4）
	17日	3校合同オープンキャンパス

2018年度 推薦入試後期結果

試験日：【A日程】11月25日（土）
　　【B日程】11月26日（日）
合格発表：12月4日（月）

	看護科 A	看護科 B	医療介護福祉科 A	医療介護福祉科 B	計
募集人員（人）	15		10		25
志願者数（人）	68	42	3	0	113
志願倍率（倍）	7.3		0.3		（平均）4.5
合格者数（人）	47	33	3	0	83

2018年度 一般入試前期結果

試験日：【A日程】1月30日（火）
　　【B日程】1月31日（水）
合格発表：2月9日（金）

	看護科 A	看護科 B	医療介護福祉科 A	医療介護福祉科 B	計
募集人員（人）	30		8		38
志願者数（人）	73	41	2	1	117
志願倍率（倍）	3.8		0.4		（平均）3.1
合格者数（人）	47	32	2	1	82

2018年度 センター利用入試前期結果

試験日：1月30日（火）・1月31日（水）
合格発表：2月9日（金）

	看護科	医療介護福祉科	計
募集人員（人）	3	2	5
志願者数（人）	15	2	17
志願倍率（倍）	5.0	1.0	（平均）3.4
合格者数（人）	7	2	9

2019年度の入試概要は6月以降に本学ホームページで公表します。詳細については、入学試験要項でご確認ください。

入試に関する問合せ先
〔教務課〕TEL：086-464-1033
Eメール：nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

学生表彰

日本私立看護系大学協会	会長表彰		熱田　悠
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（日臨技）	学生表彰	会長賞	長見 美紀
日本介護福祉士養成施設協会	会 長 賞		藤本 招子
全国保育士養成協議会	会長表彰		倉重 悠生

編集後記

創刊100号となる今号の特集は、これまでのあゆみをまとめました。特集にあたり、図書館で過去の号に目を通してみました。懐かしい先生方のお名前や校舎の変遷、各学科の様子など、本学のこれまでのあゆみ、教育の厚みを伝える記事が数多く掲載されていました。手書き記事や白黒の印刷に時代を感じるとともに、紙媒体で記録を残すことの良さを感じました。川崎学園創立50周年記念のスローガンである「かわらぬ思い、このさきも」のように、たくさんの思いを過去から未来へと受け継いでいく役割を担っているものと思いました。

また、本学を巣立っていく学生に向けた先生方の言葉には、指導をしてこられた学生に対する思いがあふれており、質の高い教育という本学の伝統を感じることができました。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず本誌の執筆をしてくださった皆様に厚く御礼申し上げます。（河邉 聡子）

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」（100号）
2018年3月発行

編集発行：広報誌編集委員会
河邉 聡子（医療介護福祉科・委員長）
見尾 久美恵（一般教養・副委員長）
森本 寛訓（一般教養）
桝本 朋子（看護科）
黒住 菜美（臨床検査科）
天野 貴司（放射線技術科）
重松 孝治（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
小池 香里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。